

最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。

分析は、全て、先週末5月27日の日足終値時点(NY時間午後5時)での判断です。尚、内容は、私の有料情報サービス「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)からの一部抜粋(毎日お届けしている中で、月曜日の朝一番の配信分のみ)です。毎日の配信をご希望の方は、ぜひ「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)をご覧ください。(動画配信を毎日行っております。無料お試し期間もあります。)

ところで、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断です。そして、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断です。

◆「マーフィーFX」YouTubeチャンネルはこちらです。

<https://www.youtube.com/channel/UCToj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々な相場解説を無料動画で視聴出来ます。

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

★「週足」はポジショントレードの大局観把握、
「日足」はスイングトレードの大局観把握、
「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、
「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。
尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。
また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャート
にて判断することをお勧めします。
そして、トレード戦略の解説は、YouTubeで配信している「実践トレード解説」
をご参考にしてください。

■ドル円

<<週足分析>>

当面の高値(131.35円)を付けて以降、「リバーサルパターン」が発生しており、依然として続落しやすい地合いと読む。先週の高値が上値レジスタンスとなる。

一方、スーパーボリンジャー上は、本格上昇トレンド局面の条件は満たしている。
今後、終値と下値サポートである $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインをキープするかぎり本格上昇トレンド継続となる一方、
終値が同ラインを下回る場合、週足ベースでも調整反落局面入りする点に注目。

<<日足分析>>

調整反落局面の最終ターゲットである -2σ ラインに到達。
目前、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。
終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。
遅行スパンが陰転し、日足終値が -2σ ラインを下回り、バンド幅が拡大傾向となると、本格下落トレンド局面入りのサインとなる。一方、終値が -1σ ラインを上回ると、一旦はレンジ局面に入る可能性が高まる。

<<4時間足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存中。
すなわち、終値がセンターラインを完全に上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が -2σ ラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。
売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサインが点灯中。
終値ベースでセンターラインを完全に上回るかどうかを注視し続けたい場面。

<<1時間足分析>>

レンジ局面。
目前、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウントトレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、
等々。

■ユーロドル

<<週足>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が -2σ ラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

「リバーサルパターン」が発生して以降、底堅く堅調に推移しやすい地合いと読む。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、(2)終値が -2σ ラインを上回ること、の両方を満たすこと。

<<日足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

<<4時間足分析>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

<<1時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、

- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+/-2のラインをブレイクすること、等々。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。尚、遅行スパンは、安値を付けたローソク足を通過して以降、底堅く推移継続中。

<<日足分析>>

本格的な調整反騰局面。レンジ局面の地合いも強い。

終値がセンターラインを上回って以降、本格的な調整反騰局面入りした格好。

売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインが再点灯中。

<<4時間足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1のラインとの関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1のラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

<<1時間足分析>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2のラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、買いシグナルや赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

■ポンドドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、「リバーサルパターン」が発生したこと、反転上昇しやすくなっている。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、(2)終値が -2σ ラインを上回ること、の両方を満たすこと。

一方、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサインが点灯中。

<<日足分析>>

調整反騰局面の最終ターゲットである $+2\sigma$ ラインにほぼ到達。

目先はレンジ局面の地合いが強まっている。

尚、引き続き、陰転中の遅行スパンがローソク足に接触しており、一旦は上値重くなりやすい場面と読む。

<<4時間足分析>>

基調としての上昇トレンド局面。

すなわち、遅行スパンが陽転しているかぎり、押し目買い優位の展開。

<<1時間足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

尚、買いシグナルの順行パターンの買いサインが点灯中。

■ユーロ円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。
すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、
終値が+2のラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。
尚、「リバーサルパターン」発生以降、上値重く、軟調に推移しやすい地合いと読む。
買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインも点灯中。

<<日足分析>>

レンジ局面。
目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウントトレーディングの基本戦略としては、+1のラインから+2のラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、-1のラインから-2のラインにかけての価格帯は押し目
買いゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
2) 終値が+2のラインの上方にて引ける、もしくは、-2のラインの下方にて引ける、
3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+/-2のラインをブレイクすること、
等々。

<<4時間足分析>>

レンジ局面。
目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
買いシグナルの逆行パターンの売りサインが点灯中。

<<1時間足>>

レンジ局面。
目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

尚、逆行パターンの売りサイン点灯時の最終ターゲットである -2σ ラインにはすでに一旦到達済み。

■豪ドル円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、「リバーサルパターン」発生以降、上値重く、軟調に推移しやすい地合いと読む。

<<日足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が -2σ ラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

<<4時間足分析>>

レンジ局面。本格上昇トレンド局面入りの兆候はあり。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

<<1時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

尚、目先、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

■ポンド円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、「リバーサルパターン」発生以降、上値重く、軟調に推移しやすい地合いと読む。

<<日足分析>>

レンジ局面。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウントトレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

尚、直近にて点灯している売りシグナルは終値の位置から判断して中立と読む。

<<4時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、

スパンモデルは、時間的因素を重視し、より長期の判断となる。

また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断となる。

以上です。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネル登録のご案内。

<https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々なマーフィー流相場分析、解説が動画で無料視聴出来ます。

◆マーフィー流 FX「実践トレードコーチング専用」ライン@のご案内。

以下より登録できます。

<https://www.span-model.com/line/>

◆「スパンオートトレーダー(SAT)」のご案内。

「スパンオートトレーダー(SAT)」とは、「裁量トレード」と「自動売買(EA)」の良いとこ取りをした、とても便利なトレードツールです。

「スパンオートトレーダー」の詳細、及び、お申込みページはこちらです。

<https://www.xfine.info/satrader/>

◆「スパンオートシグナル」のご案内。

スパンモデルを有効に使いこなす為のきわめて強力なツールです。

スパンオートシグナルのご紹介、および、ご購入用ページはこちらです。

<https://www.xfine.info/sauto/>

以上です。